



田舎草紙巻

新編 下

^ 13
3720
2



門 へ 13
 3720
 2
 卷



田舎芝居忠臣藏初編卷之下

江戸
 式亭三馬 新編
 朝霧房 舊案



抑行本茶飯をまがすまるとたぐぬるふ。うすまはついでの
 下の様好。因倍長履りそり序破急の目けもつち
 中もむちやらちやの代りあへ。胴満声の調ふとるき。
 中づれ音古呑のおろくもあう。貝づじや奴の道りへ
 中どはく先陣向きう一飛ふ大塔宮の身代喜段

田舎芝居

孝宗の念佛場白を新の七の目申す。美代曾我の八百を
 のと。世傳も時代も一口津瑠璃をのくうあるを申す。
 お申のあらひ器用とぞ。精出の吹守で一蕪のたま様。
 と早う食付と教ふるおの骨子より。実をのれてむらう
 お先くと進よとて。おらふお下まの肉徳の学も二三交
 月並の會今交の立合。床用やし翠簾用と何も角も
 旦那くおらるる。お掛板までうらうと仕へと
 結構むら。誓古をの活計。飲食かへらまことせき居
 よりのをたあよりあり。ごの茶飯さぬと。霸の利くありも
 巻ころう。う嬉しくふ。風呂をいさておき。雪隠の中ですえ
 声隘梅の地さじ。掛札の扱頭。おさうりおをせさか。能樂の
 指南。おそのこの刻合。その出後。あるひの南一あるひの
 五々。二百はんで汗流し。てゆるびる。ものる。油か
 等あるふ。あささうて。出借の上下と扱ゆる。かう。おまの。見
 臺と扱ゆる。床本書。おあせくる。文字の五行も。いそ
 て借り。出を。借人。併る。三弦。彈の撰。嬉ひして。あぐと

孝宗の念佛場白を新の七の目申す。美代曾我の八百を
 のと。世傳も時代も一口津瑠璃をのくうあるを申す。
 お申のあらひ器用とぞ。精出の吹守で一蕪のたま様。
 と早う食付と教ふるおの骨子より。実をのれてむらう
 お先くと進よとて。おらふお下まの肉徳の学も二三交
 月並の會今交の立合。床用やし翠簾用と何も角も
 旦那くおらるる。お掛板までうらうと仕へと
 結構むら。誓古をの活計。飲食かへらまことせき居
 よりのをたあよりあり。ごの茶飯さぬと。霸の利くありも
 巻ころう。う嬉しくふ。風呂をいさておき。雪隠の中ですえ
 声隘梅の地さじ。掛札の扱頭。おさうりおをせさか。能樂の
 指南。おそのこの刻合。その出後。あるひの南一あるひの
 五々。二百はんで汗流し。てゆるびる。ものる。油か
 等あるふ。あささうて。出借の上下と扱ゆる。かう。おまの。見
 臺と扱ゆる。床本書。おあせくる。文字の五行も。いそ
 て借り。出を。借人。併る。三弦。彈の撰。嬉ひして。あぐと

うまの歩けバ。たましく頼つゝ者ガ指さして。あまの横
 町の金貨の息子。及。常用。お人とり。入口の下。うら。笑。か
 る。耳。も。遠。入。る。も。親。の。糸。も。其。身。の。累。も。忘。れ。そ
 る。おの。ろ。も。ごう。で。異。見。の。ま。る。お。ま。よ。を。ぬ。勝。自。あ。
 じ。と。本。切。て。あ。う。ま。出。る。親。仁。の。一。言。ラ。ッ。合。点。
 そ。も。蓋。ぐ。か。く。ご。の。ま。道。行。と。ぬ。う。ぬ。親。で。狂。風。勘。当。
 立。揚。お。ま。よ。の。湯。穿。の。と。鼻。唄。ま。ご。ま。ふ。り。ぐ。く。と。さ。う。て
 け。ど。の。お。ま。も。ま。り。さ。び。だ。い。さ。く。誓。古。を。へ。ふ。ぢ。う。込。る。
 近。い。出。さ。ま。ご。お。ま。か。く。ま。い。あ。く。も。異。な。り。の。と。始。の。情。
 今。の。お。ぬ。心。あ。る。お。ぬ。さ。び。ご。貸。度。後。借。り。て。三。月。に。月。の
 懐。の。有。合。別。添。の。花。子。お。ま。お。ぬ。お。ぬ。あ。い。て。も。あ。る。さ。び。あ。ん
 と。返。洞。も。口。と。親。類。く。悦。ま。る。の。一。往。や。二。往。で。故。公。の。お
 親。父。ご。ま。の。ま。く。し。と。疲。我。後。今。ま。で。恩。を。か。け。と。者。も
 息。よ。う。孫。バ。我。と。我。身。の。う。ら。ま。の。で。人。の。落。目。お。世。信。も
 中。ぞ。と。見。ぬ。親。さ。る。の。あ。ら。ま。の。お。り。と。お。お。づ。じ。の。拾。洞。
 ぞ。う。つ。く。あ。も。の。お。ぬ。の。目。お。追。て。ま。く。さ。る。腕。を。質。お

へてのふづくい。笑おくるも外ともおのぬ。釜ふ隆了。その
 のるふ。張芝居と出うけ。歩りう。さきの張。張ふ交りて
 太夫ふらうらうと。おひの外。まうさるの。流まで。どこが。さま
 西。陰芝居が。りへ。扱。い。て。ち。物。降。る。り。あ。も。む。く。ぬ。流。云
 給。金。瓶。そ。ち。う。う。出。て。も。抱。人。の。ま。い。湯。を。降。る。り。ま。ま。も
 張。の。働。さ。う。く。の。樂。を。米。ぬ。あ。ま。と。つ。く。り。て。中。ら。う。と。は。く
 小。恥。し。ら。ら。色。を。ど。も。て。惜。し。か。の。ま。か。未。熟。へ。さ。て。の。今
 中。で。接。が。れ。う。と。悔。ん。で。も。強。め。ぬ。ふ。せ。ひ。あ。く。張。芝。居
 の。樂。を。番。も。新。婆。婆。の。か。あ。さ。ま。三。弦。の。底。中。か
 小。使。お。た。ま。き。つ。う。り。ま。こ。こ。ち。う。け。う。日。輪。が。ら。ま。ぢ。や。入。る
 て。来。い。と。い。い。ま。じ。も。芝。居。の。隠。借。り。ま。じ。ぬ。小。息。子
 五。を。い。く。ま。ん。で。い。ん。の。中。か。い。と。う。り。く。ま。る。や。ま。い。り
 金。十。帝。ぢ。や。ぢ。か。ま。い。く。わ。て。く。れ。ぬ。う。い。ら。ぶ。も。ぢ。や。さ。く
 か。こ。ま。の。ま。い。り。か。ま。う。一。ま。や。二。ま。り。つ。り。わ。れ。う。ち。ま。ま。人
 と。見。て。ら。つ。ま。ま。か。い。と。ま。い。た。の。し。む。樂。を。の。あ。を。づ。れ。
 の。う。對。屋。し。こ。ろ。虎。つ。う。り。の。ま。ん。ぞ。者。の。を。う。う。く。雜。用。坊

住吉屋

下 四

で久七まことしちおびてあつた。そのしん能の。我のせ酒を飲るが汝の
 何なんの。ハヤク我のろくお後がそう空しい。服ふく喰ふとまをたいて
 桑版さかんとよびつ借かまきさうせ。ホウケふのあんとおみて
 ぢやちやハなな業あてぢやな。テモあつふのとちう者ぢやお自ま杖づえが
 ちのいイヤゴレ助たけ太あひ杖ひん云う。鼻はな杖づえの序ついでの香物ごうぶつとちう湯ぜんも。
 糸いと碓うすふまうと入いてまのとりふぢあぶのり合点あつゆる
 とち長なが崎さきの十じゅう禪ぜん寺じ入い替かとまをて。沢たけのまきぬを糸
 用もち場ばで向合あひをおくまよ細糸いと段だん。其そのにいふまうも
 我われ身みの鏡。どろぞセンホをまえこのいめのと公をつけて推お
 量りか一いってえんふ。アんぞめぢくんうとりふを。何なにぢやと見
 きべ茶ちや食を入いるを。敷ふのまうけの止てあつた。とりふの粥じゆく
 何なにぢやとりふる。口くちづらんくとまう杖さるうらん。
 何なにぢやとりふる。志こころをおかれてあつた。口くちづらんくとま
 くまを洗ふとえてん。便ようどのおけさまとええ女を子こ
 の美うつくしいとえてん。ちやが助ちらぢや。醜みにくいの助ぢやぢや。
 七しち助すけぢやとまいひ小こ兜かぶととえてん。婆ば女にやとりふりの見物けんぶつ

田舎いんがの見物けんぶつ

けども。あんでおんあえんべい。まび又菩提寺い来たとも。

うらが内いさまわんども。モエ茶飯をまた後ハモノ。曆と

お救ふると慰斗とが佳例どう。又あくら門で内

まことい。コウヤアおにイのあんごエ。コウイ。仔細の法師

後のるさ。びらがうづり。チヨボ落りのを又後らエ。

ハア方載る。びら早へる。万載のろ免紙ごま。下い

中の足。茶飯をまたあひる。あひる。サアよらり。サ

サハハハト。サアく。味ハよるのちやチト。さ

そや。ト意味ハ。茶飯をまたあひる。あひる。サアよらり。サ

を清てかじけまの。茶飯をまたあひる。あひる。サアよらり。サ

うんま。おま先へ。おま先へ。おま先へ。おま先へ。

後のもを。茶飯をまたあひる。あひる。サアよらり。サ

中。茶飯をまたあひる。あひる。サアよらり。サ

と離る。茶飯をまたあひる。あひる。サアよらり。サ

りみて。茶飯をまたあひる。あひる。サアよらり。サ

てである。茶飯をまたあひる。あひる。サアよらり。サ

と名更る程ぐる。夏ハち鼓を扱て三つともりいづ。

りりしが親方さまを者づの丸込むが好ごトひとりごとをうつく

づりけり茶目らんニツ中つららる茶をあまうりふんてつる茶の

丸がんのせて持あるをけ茶目らんハ大ドんどの此葬礼の時教み十を寄ハ

あらじめらハサア茶でも食りつて「あんざりけぞんせむさ

立隣て「アイトまわりも甘を「ハこまのをくらり「ヤモおと

すいさるるな「あふハ。かりなもあまもごらん移入雑煮

ふあななか「あか「茶づの食天を後づの深さる見。

モ。茶後も一時ごよ。トちりりわのあめ「七さ進どのも

津瑠璃かきつら志丹のさうごが表徳ハあんとらふナ「あふ

うらがナハがさるさづがさる。あんでも移るゆごのサ「あんちん

表徳ハ「番汁と「番汁。田子村の番茶十鳥と移ら

し。モ。玄十もぶつくがさるで五移ら「あふ。うらがナハ

宗上「遠ふ「まが家の先祖うじて津去宗がつけ入。ま

かお代わかけ申と大病と日づらつて十死一生の時。親類

ま合言提すの和尙さゆも納めの上で。百日法をたふさる

とるが有け「あふ其るを移入。今の酒落さ「ま

さう酒落と早くこころか融とか。ソシテあんあんぐんぐんぐいぐい一一を

後ご節せつさ。モノを後ごあも二ふた弘ひろふまつてあるがも。うらやうらやああふ

後ごさうああ方ほうでぶつてあありべいとあつてああ方ほうささおお中ちゆうと。

中ちゆうづ常じょう般ばん津つ体たいああたまたま及及びのすすふふ徳とく利りををままああふふ人ひとと

今いま一人ひとりの富とみ本もとををままたまたま及及びの門かどで片かた仮かり名なををままああふふ

人ひとと二人ふたりりりふふおお中ちゆうととけけたまたまととちちややアアのの戸とでもでも淨じやう判はんをを

名な人ひとととげげととああふふががあありり又また度たび駕が急きゆうももええちち又また淨じやう瑠る璃り一一

大おほななををででふふんん出でししててかかみみ。ここららとと色いろももああららむむ。モモノノアア。りり

ちちののああよよ大おほよよせせ小こよよせせのの廓くわくのの名なととりりのの千せん山ざん万まん艘ざうああみ

ののぎぎろろちちろろとと。押おしせせやや色いろ男おとこ。かかるるももりりててままととををいいとと。つつ

自てん拭まぎののああううつつろろづづりり吸ま付ひたたががここのの火ひ血ちゆうせせんんああぐぐんんでで吞の

下お居ゐるるののままささららいいああがが。どどううああももかかううああももここととああれれさんさんとと

一いちコこ玄げん十じゆう。能あた加か減げんふふ志しろろとと。けけ鉄てつ流りゆうさんさんぞぞもも。野や人ひとささらら

けけ村むらでののががささりり人ひとととがが。ううららがが義ぎととままままいいががああつつててもも。ああをを

後ごちちままるるんんぞぞああかかちちアアセセるる物ものでで正ただ統とへへ。ままままままアア。ああんんののああをを

後ごよよそののああらら後ご志しろろととむむせせ一いち鉄てつ流りゆうととんんままののままでで義ぎととまま

日本書紀

十一

筋^{ぶな}が^まあつて居^ゐる^に。うらやうらで^{うらやうら}。後^ご節^{せつ}イ^イが^がな
 る^るに^に。あ^あも^も。ま^まい^い。宗^{そう}前^{ぜん}は^は悪^{あく}多^た。ち^ち移^{うつ}入^{いれ}。お^おん^んの^のま^まで^で
 ざる。宗^{そう}論^{ろん}の^のお^お辞^じ既^じさ^さの^のう^うら^らの^のお^お云^い付^{つけ}で^でま^まび^びの^の法^{ほう}を^を
 ござ^{ござ}う^うア^ア。あ^あお^おさ^さ宗^{そう}論^{ろん}は^はる^る氣^きを^を移^{うつ}入^{いれ}が^が。ま^まが^が後^ご節^{せつ}
 づ^づの^の巻^{まき}ち^ちぎ^ぎう^うら^ら。宗^{そう}さ^さの^のあ^あも^も氣^きの^のど^どく^く。
 二^にの^のあ^あの^の明^{めい}日^{にち}自^じ行^{ぎやう}の^のゆ^ゆけ^ける^る。踊^{おど}狂^{きやう}云^いの^の千^{せん}三^{さん}百^{ひゃく}後^ごご^ごう^うら^ら。
 皇^{こう}の^の氣^きお^おあ^あら^らう^う。時^{とき}あ^あや^やア^アけ^け判^{はん}官^{くわん}を^をち^ちど^どり^りと^として^{して}。
 ま^まご^ごう^うら^らま^まで^での^の役^{やく}義^ぎあ^あか^かる^る。明^{めい}日^{にち}の^の役^{やく}義^ぎを^を首^{しゆ}尾^びよ^よく^く
 勤^{きん}る^るの^の糸^{いと}級^{きゅう}ち^ちま^ま後^ごの^の後^ごの^の月^{げつ}お^お有^ある^る。物^{もの}ご^ごは^はは^は又^{また}
 附^つり^り狂^{きやう}云^いサ^サ出^でて^て。後^ご節^{せつ}で^でも^もが^がる^る。ち^ちの^の物^{もの}を^を後^ご
 り^りさ^さ。一^{いち}ま^まエ^エあ^ある^る。あ^あど^ど及^{およ}び^び狂^{きやう}云^い極^{ごく}さ^さ。モ^モ。同^{どう}ド^ドま^まち^ちる^る。新^{しん}田^{でん}
 下^げ。ま^ま十^{じゅう}と^と私^しと^とが^が一^{いち}の^の田^{でん}を^を作^{つく}ら^らう^う。下^げで^でま^ま十^{じゅう}が^が五^ご俵^{へう}
 ら^らう^うて^て。私^しが^が五^ご俵^{へう}ま^まご^ごう^うら^ら。ま^ま十^{じゅう}お^お持^{もち}が^が狂^{きやう}ア^アお^おん^んめ^め。
 それ^{それ}が^がモ^モ。高^{こう}賣^{ばい}忌^ぎ敷^{しき}ご^ご。下^げを^をま^ま後^ごさ^さう^うぢ^ぢや^やア^アお^おん^ん
 め^め。一^{いち}ハ^ハ。ら^らや^やり^りう^う。狂^{きやう}云^い六^{ろく}の^のぢ^ぢや^やお^おう^うて^て。け^けら^らト^トト^ト
 かの^{かの}ん^んぢ^ぢや^や。一^{いち}リ^リ。氣^きが^がつ^つる^るま^まん^んご^ご。お^おん^んお^お持^{もち}お^おぶ^ぶが^が可^かる^る。

田舎の狂言

下

担言こまハ一そのハ時頼頼託託ぢや一時頼頼死死多多珍珍炮炮の
 中中を物物ぢや一移移る上上一一その地雷地雷火火ああ北北条条時時頼頼
 死死一一それそれくく富富士士見見西西行行寺寺後後ららけけ子子ハハイイヤヤ家家
 明明寺寺ららナナハハイイヤヤぢぢや一ままぐぐてて音音曲曲々々人人物物ハハ託託種種
 感感熱熱女女人人政政化化ささるるりりんんどどテテ子子ららがが村村めめむむじじをを我我
 高高ちちろろ後後ちち人人ががあありりててそそののヤヤヤヤ龍龍がが名名人人ささるる
 ううららもも其其人人のの遺遺跡跡後後ののささらら砂砂ややををちちぢぢととああららるる
 ももごごららるるここののささららるる後後がが後後のの異異類類形形なな奇奇
 特特ががあありりここのの時時態態坂坂のの後後をを極極るるここげげとと一一二二ウウ一一そ
 ここで一その態態坂坂を一番番ううららるるてて身身をを其其のの其其晚晚盗盗人人
 がが遠遠入入るるここげげとと一一ハハハハ一一これこれののあありりがが迷迷惑惑なな奇奇特特
 ぢぢやな一一情情のの罪罪科科ぢぢやら一一モモノノななまま後後もも
 三三味味ハハ後後もも大大坂坂のの生生生生らら子子一一ハハたた後後ででごごららるるままとと流流るる
 身身をを助助るるああららのの石石はは合合トトけけるるららのの一一身身体体一一ぢぢやな
 一一んんふふ仍仍ててけけ拉拉ぶぶ目目中中でで潰潰一一中中一一んんののけけまま
 一一んんもも大大坂坂ででハハ二二ととささががららぬぬ大大立立者者ぢぢやな。同同東東か

白銀集

十四

見物しこふりし中しこ味ハるも大坂の
 者でござりませと。さきの芝居出ても立ぢやま
 河比下りし中しこ味ハるも大坂の
 戸ハ分論二かの津で茶飯をまきん者でござりませぬ。
 初下りの時の景氣は目小かけさかるとす。引幕三張
 水引幕二張源流の帳かありやま本紐であつとぞい
 一僅入十六本ぢやる。一ツコテ新津瑠璃の名代が妹脊
 川忠臣様。世界の山拵をまでこの切があらうの大坂で
 あつとついで舞臺を引割て生中か妹脊川の流し床の
 方の亭より安徳天皇とやりをりて中良のゆが女房
 お石が立てぬる共嬌る石堂丸が持教一の罪で石子
 借ふさるふころちやの方の堰作りの亭ハ真子の産屋で
 本名ハ山拵をまけ娘の雛をが酉の年月日時拵ふこ
 ゆゑふし膳ととりて真鳥小食ハせぬバ忽七人の形を
 あらへまことりし。これハ四の切のこんごの筋ぢや。ま
 切小雛をのし血と真鳥のし血と一ツふまると。実ハの

日本書紀

下 十六

惣ふと現へきて、鶯娘の愁歎、床のさの亭へへ美向千
 崎、灰村の徑進、石堂丸と、ゆ中玉、ゆく、落して、中と。
 道、奥が引けて、一面の波幕、波板、一の手、うら三の手、まで。
 舞、基中が、妹、脊川と、あるト。夏の落合で、鶯娘の怨思
 が、ゆ、舞と、ふ、ふり、りて、川へ、えんぶと、飛入て、安珍、さ、ゆい
 のうと、怨と、さ、う、う、めて、ゆ、く、夏、金、舞、め、命、今、國、が、出、て、の
 辰、切、ぢ、あ、つ、こ、が、あ、く、ふ、の、を、ぐ、こ、で、ご、ご、り、す、こ、一、其、こ、の、切、い、
 誰、が、流、く、こ、一、ハ、その、時、に、改、ま、ま、後、と、径、ま、ま、後、と、の、掛、合、
 せ、う、ろ、一、後、ま、ま、後、と、ま、ま、ま、後、ゆ、も、せ、う、ろ、と、の、い、こ、ナ、川、
 さ、う、ぢ、や、ソ、コ、デ、夏、ふ、あ、る、茶、飯、ま、ま、後、か、の、志、あ、ゆ、あ、の、
 中、の、あ、け、振、さ、小、さ、ま、場、を、掛、合、も、あ、不、止、の、い、の、松、一、人、で、
 後、り、ま、い、ぬ、と、い、り、て、大、場、を、一、人、り、で、後、く、ま、中、と、一、ハ、テ、
 ま、び、の、この、流、る、ゆ、ら、け、子、一、其、時、の、ま、組、か、あ、く、の、物、で、
 あ、つ、こ、ナ、一、さ、ま、び、の、い、ま、玉、持、ひ、と、い、ふ、歌、で、あ、つ、こ、一、ま、び、
 親、仁、え、ん、ろ、一、親、仁、え、ん、と、い、塩、町、の、柳、ま、糸、後、け、け、吉、人、
 小、さ、ま、の、改、ま、ま、で、ご、ご、り、す、と、一、そ、ま、い、石、町、の、文、茶、飯、後、ナ、

けんの位をまちや。これも通以古くふるんす。なごまよ

多々大をまちであらと。一ちなごのりもをてのけし。洋瑠瑠いさうろう

倍の玉とりのうら位さんぢや。そ色うらけ村金の源ぢいどん

管竹屋の正務どん。油屋の佐助屋。中村金源なかつんげん

うらそとめて。奴倉をまち屋や。そのおの国希を糸細をいとほ

屋をどん。ひとりにしてめし時代であらと。一其その中で三切瑠さんきり

あぢぢやうら。今で二がの津つ小茶屋をまち屋小揃おそろづく者りな

ござりせせぬ。大坂でなびら屋が持以とく隠居かくい持下。三法さんぽう

ひきの玉ぢやとりのり色ど。私がけりぢやりの。又大俵のおおい

さまの皆茶屋をまち屋の所ところ執者しやくしや吉原茶屋の中をなかにおめりて

二とびしてまぢやう。爺おやももお執しやくする公ぢや。一いち

お執しやくするのしてても眼があんまなこめ。ハ。らや得あやまつ。哥執かしやく

と自その鼻でかぐぢや。一イヤモウもウ実所じつしよ。あつちやころちやうら抱くか

来てうらさうてまじんりのぢやふよるて三味八と候あきとせ途とちて。

芝居の火宅しやいをのびまことぢやりの。一さんさんなアあうらうら甘あまて。
一いち本ほんを一冊いっさふりぢやぬか。大をおおいまち屋の身持みもちぢやアあえり

茶屋

一

うすきでもありかきして。伴勢尾は伊京大坂の芝居サ
どつて。大あつりといつてぬつこち人物ごろう。別人ごろう。ま

らちいゆんとあつり。ト一むんまあうれてこのつひをまのま
はもあつてあつり。人ごろう。あつり。あつり。

目と見え。一あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。

ぢや。あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。

つ。あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。

げふごごり。あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。

あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。

あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。

あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。

あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。

あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。

あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。

あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。

あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。

あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。あつり。

今めしこむり。至等も聴えん。一さんごうハア

後へおらう。とらふれん。セサア。たまなつぐい。う

一。これハオウ。ト。モ。二味ハ後ハじ。が。

てやるべい。ツレ。天目ハ家サ。ご。ご。能。子。し。ち。つ。し。

居さう。せ。り。や。よ。かん。べい。一。つ。ト。酒。が。す。ま。い。

一。大悪酒。ぢ。や。者。が。精進。物。の。癖。小。番。捕。が。汲。

有。ラ。ツ。ト。は。を。つ。ら。う。一。さん。ぢ。や。一。結。搦。さ。お。ま。

一。味。一。あ。つ。く。ト。ち。あ。つ。き。う。て。一。げん。一。鉄。尾。の。さ。

七。之。選。さ。ア。飲。つ。せ。一。ア。ま。飲。つ。せ。一。サ。ア。く。金。音。

ト。け。内。ま。が。く。一。叔。也。も。大。概。思。つ。く。ん。べ。り。子。一。ア。は。家。

十。分。小。思。つ。や。一。秘。書。の。邪。魔。お。ま。つ。ち。や。ア。ら。

かん。べい。さん。ご。う。ハ。ア。の。秘。書。一。秘。書。一。ア。は。法。施。

ゆ。ま。り。中。一。サ。ア。く。二。後。目。エ。内。の。者。役。者。一。ち。や。

家。出。さ。う。せ。ん。一。秘。書。古。く。一。ま。が。其。役。者。の。

帳。面。サ。が。一。行。場。一。く。ら。解。る。ご。ま。一。ま。ま。ま。

合点ぢや 律者といひ男侍 一 おたま 始てお同ふ
 かりやと。私イ谷坂の侍者らよ者でござりやと。モノ
 之辰月ぢや。警坂侍内の役ウつらやと。一 つて 松が
 親父イ谷坂の侍ちらといひやと。其のころ侍者と
 といひやと。志るふおけ度之辰月の役義イ撰ある中で
 警坂侍内ふ高らちふるもふん強な由縁さ。侍
 ちら子の侍者侍内を侍るちふるも。あんのう周
 縁づくんべい。ことをりい考るふ。私以女功徳の
 補い。善提寺で仕て侍内を侍らさう。親父の遺
 言ふもさうせん。つらもづらぶよ下で出るおごとも。
 私今交の袖あ〜ね織イそそ。花色も縁のくさり
 隙巾サくづらて。善提寺の先住さあう。頂と教珠
 指て。杖サ穿て出すとべい。別のころでもおんが其のふは
 親父イ記念の物さ。そりさやア當年七十八ハ
 なる波女さゆも。いころのねらう志も中後へ。コレサ
 一 侍 てもふ中ござりやと。まがチヨボと。コレサ 侍 侍る

時勢のす糸たる巨谷坂 コレサ 侍内とらふあど
 そら共モノとあして親の コレサく 親のす糸する
 谷坂侍者とがらて下り くれのきつり。あふとらふど
 侍者。ふい太ふ自惚らうなるもさひ出さふ。それ
 ぢやア忠臣義の表向いする移入 こそが共 親父の
 菩提のゐごう。不肖しくごせ入 あり中移入。
 親父の菩提のゐごう。そまごの担言が踊らさぬ。
 ハチサ菩提のゐごう菩提寺入二百を納して回向す
 きて夢つこが能さうはまび親父いゐでも先祖
 代くても進言さ出するもご こそさういゝまを
 二百の円磨鏡正を納ごう。うらア菩提寺 初めて
 尊創檀那ごう。二百や二百のゐでも移入。そらや
 らまが法るいあるそん 杖が遠ら。解さ甲らふれせ
 て空振るちうそのるご。函紙幅う入るご。
 谷坂の侍者でござる。踊の指墨の信べいが。法りの指
 墨なるもみさうする男で移入。はんごういゝまへうら
 我

巨谷集

巨谷集

我

田舎抄

十一

平のぞとあるどかい。そのしほ移ゆるるごとし。さうな申まへは移ゆるるなり

止よと。あきが止やる代めやア。相あひかひの付く内は移ゆるるなり

奴ぢが有あるなり。只ただの通とほる移ゆるる。あき又また移ゆるるなりとせ移ゆるる。

畷のぼ坂さか付く内は谷や坂さか付く者ものが勤つとめ移ゆるるなりやア。先まに移ゆるるなりと

由よ移ゆるる。サアさをたるなり。至いたる男おとこの移ゆるる付く内は誰たれぞよとせ

足あが移ゆるる。あきどう移ゆるる。一い寸すんの密ひそかも五ご分のほん魂たまり

一い尺せきの密ひそかも五ご寸すんの魂たまり。あきよし二に尺せき五ご寸すんの男おとこ

り。且ま待まて。郵ゆうづらふなりようてよ。二に尺せき七しち寸すん五ご分のほん魂たまり。

あふるなり。小こ指ゆびと食くへはぎひのたらしいなり。一い寸すんの密ひそかも五ご分のほん魂たまり

坂さかの付く内は骨ほねがあらうよう弱よ味あじ留とどめはるなり。ふららしよう甘あま味あじ

抄せう鼻びとらちととまつなり。一い寸すんの付く内は誰たれぞよとせ

等らがあらう。よく先まにあらうとまつなり。正ただとらしいをあらう移ゆるるなり。あきもあらう

度たびが移ゆるる。あらうなり。申まへは移ゆるるなり。移ゆるるなり。一い寸すんの止とどめ

通とほる。あらうなり。申まへは移ゆるるなり。一い寸すんの止とどめは移ゆるるなり。

付く内は誰たれぞよとせ移ゆるるなり。あきが移ゆるるなり。あきが移ゆるるなり。

田舎抄

十一

付く悪いとらんとも及理ぢや。サ安ふあるら。十一
 辰岡祭の切。焼香場を一切けらん。サ能うナ。焼
 香場其位解がある。其位解をおまの親に振の
 位解めして。おまが同向さんして。どうぢや。夜
 焼付もおまの焼めして。焼香するぢや。サ能う其代
 三辰岡へおまさんといらん。通例で出らん
 也。その二つ双方の云情が立て。どうぢやも丸う纏る
 一なるあど。そのやらうう。能擲ぢや。サアも、
 双方

付中でもとらとよとあまよまこませら。一なるあど。ま
 かりん。どうう。松イ。云う。親子。一なるも情と
 でも親が。安ふ。一なる。親入る。がある。中言の
 初め。おまさん。塩治判官。あるの位解。どうう。焼香も
 べの。館内が。款の位解へ。あんで。焼香する。どう
 あど。能あ。どうう。一なる。サ。そこぢや。テ。一なる。一
 一なる。館内。一辰岡。おま。と。斬ら。ある。どう
 一なる。おまさん。で。斬ら。れ。う。親の名目。健の字が。揮
 一なる

ぢやあつまる付「くらさぬ葉」あで斬らぬ付「フント

あん葉「斬らぬとふ助ける。ナ能付」能葉「能付」能葉「こもれバ

お中人降葉ぢや付「降葉」子葉「降葉」強付つて

助付代付了付。判官の家来付なるぢや。ワコデ。家来付ふ

さうこの目見え付の付で。判官の位牌付小鏡香付。共位牌

が親付位付さん付の位牌付で。おまの形付が紀念付の付お付と付ふ付

小。愁付が利付て見物付を泣付く付。ヤモあ付の役役付。おま

一人り付でう付ま付る付ものぢや付「あ付る付わ付ど能付は昔付

そま付お付ま付つ付ら付る付さ付「や。こ付る付やア付ある付わど能付理付屈付ど。モ

ち付ら付つ付ど付の。今付の付もの付の付え付ふ付降付つ付え付ん付べ付い付。ゆ付ら付る付せ付ん

只今付ま付る付ま付る付あ付り付づ付ら付い付と付ま付で納付け付ら付の「新付

づ付お付ひ付ん付づ付。そ付ま付で海付む付さ付「は付ん付づ付ら付ま付お付ま付

づ付「サ付ア付く付そ付ん付さ付ら付振付り付お付「は付あ付り付ま付あ付よ付」こ付ヤ付ン付」

「あ付ら付や付あ付ら付の付あ付ん付と付せ付」能付「振付り付て付こ付ま付こ付ヤ付ン付」大付あ付ら付

で付ら付ひ付ら付こ付ヤ付ン付」村付内付能付景付田付で付こ付ヤ付ン付」豊付年付満付次付

で付り付で付ら付こ付ヤ付ン付」サ付ア付く付「枕付昔付古付と付出付後付記付」

日記

十六

疏とろ小こ室むろ日ひとろりりきこべ未ま明あより押お合あへ合あひ。通とる
 通と在ざいの老らう美び男なん女にょ。雅まとさぶさく通とるもたぐ。さひく
 の作さくまをつじて。夜い装しやうの好この形かたち容ようの粧まけひ。室むろ小こ
 曠くわうとぞ志しのまりきりる。先ま本ほん舞ぶ臺たいの板いた敷しきせ張ちやう造ぞう。
 芝し居いの四し面めんの女にょ院いん貴き薦せんなどめて押お圍ゐひ。花はな道みちの
 檟えん橋はし乃のでぐ。檟えん臺たいの繩なはかづげらる。天てん井いあゝの
 糸いと孔くわう狂きやう言げん本ほん戸こもまらきこべ箇こ場ばもあゝと。戸こさぬ
 御ご代よの纏ちんひとん。さふ是こ等ととやらふさうん。殺あ多まの
 見けん物ぶつ始はじめまどもと連つてまま箱はこあひ豆まめ粒つぶの牡丹ぼたん餅もち。
 芋いも胡こ蘿ら蔔ぼく芋いも菰こも苧じゆの煮に漆しつあて。糸いと島しまをつらば中ちゆう。
 素すともしりふべき男おとこ。大おほ肌あぬぎとめて糸いと衣えかたげ。
 大おほ衣えを斤うらまふ引ひ提て一いっあふいどうとた。歩あ倒たふ候こう。
 食くの移うつら。飾ありおろ志しあがら移うつら。こちりの渡わたり。
 糸いとアめらあら。と大おほ声こゑよとて素す歩あひの表あはの糸いと。
 小こ室むろあかけ居い居い高たかの店みせあれば酒さけ客きやく車くるま。
 小こ室むろあゝびて。花はな小こ東とう浦うら塞さい。鮎あのあんらけ。

目録

十一

喰ふんまのさう身。まど音ゆ〜と酒のむもあり。其
 娘〜さうらん〜さ〜。時ふ楽屋の交交〜のひ。
 世作及とあがり〜ま田の。顔き袴の操〜の〜。か
 カチが。カチ。と四ツの拍子もあ〜さ〜く〜ま〜のま
 へるき〜見物儼小〜り〜結〜て。今や遅〜と〜ち
 かり〜。世作及の「サア」さ〜ん〜ら〜屋〜支〜交〜が〜ま〜さ〜
 舞〜其〜へ〜ま〜ご〜能〜屋〜屋〜も〜た〜ん〜く〜さ〜る〜。サア 茶
 飯〜ま〜ど〜の〜早〜く〜棚〜へ〜あ〜ご〜ら〜つ〜せ〜入〜と〜味〜線〜ひ〜き〜眼
 つ〜ま〜さ〜。ヤ〜イ〜こ〜ハ〜秀〜其〜操〜上〜り〜て〜さ〜ら〜り〜よ〜て〜せ
 っ〜そ〜ご〜溝〜ご〜。あ〜が〜秘〜く〜。サアよ〜〜〜。よ〜く〜バ〜口〜よ
 り〜ぶ〜の〜「東〜西〜く〜。扱〜。幕〜の〜角〜ま〜ぐ〜ら〜口〜よ〜の〜サ
 ま〜と〜。ま〜ご〜う〜当〜村〜を〜娘〜小〜付〜け〜さ〜バ〜風〜ふ〜と〜ら〜う〜。
 其〜よ〜不〜菩〜提〜寺〜後〜義〜さ〜。此〜信〜公〜の〜お〜蔭〜を〜り〜ち〜は〜し
 て〜大〜入〜大〜あ〜ら〜りの〜ら〜〜〜中〜〜。さ〜ら〜不〜今〜月〜ハ〜ア〜後〜義
 の〜怨〜以〜世〜切〜徒〜て〜ご〜さ〜る〜ふ〜よ〜ら〜つ〜て〜無〜調〜法〜さ〜る〜者〜の〜ま
 會〜り〜。級〜名〜も〜本〜忠〜臣〜死〜誦〜狂〜言〜の〜う〜怪〜〜ま〜さ〜。先

チン トチヨボをわらうとんまきわらう ちん 判官とんく。まがいすあ。

あんのつるご。今日いふしつ時と中よいしでござん

孫くらまふらア今志ぶんのろりくと。朝飯あつ野

仕業畑でもうまふらうつる。あんふら。あまれごんご。

まろくしあれあご。あまらけいあ網法さうらな

がら。ああサある中でよ。まごるがあんづの ちヨボ 「となご

よりあ箱とりあし「モ。先刻のつるご子。うらうら

おのねちねがまら小居くまるとまうけし。さうやアと

私があんげうらうらとこ。あんげうら ちヨボ 「とえん出せ

あまらで なるあごまがふの肉まなうがけござら。

うらうら哥サ孫むのあ。ああまかまうおぐ。モニ二ア

うらうねむいといふらあひあ人あまてあまのこん

ちヨボ 「と押しさ。あんげ。たのまごあよあのあうの

小あごあもあつまあうで。じんああかまひそ。あま

こご。新古今の中あまが ちヨボ 「け古あふてんこく

とん。々々。と思案の内。あまのあまひねあま。あま

下交と先く。丁どまが。番椒味をとりこ中りふ。
 毛りくくとうらたねぐら。其井戸と似たる。
 井戸馬。井戸。イヤ井戸。侍工。チボ。ト出らう。
 判者後小と急子。井戸へく。西化でも珍まを扱
 まるべのまぶが。まあ。中き。物付。言
 妙院。気がよき。毒菴。後。徳。あん。
 遠。是。村内。おんのちん。せん。
 今の悪言の本。き。ま。き。ぶ。本性。

ぞく。ま。あ。と。け。と。ち。ま。と。接付。
 向切。付。眉。間。の。大。疵。これ。と。ま。づ。む。身。の。か。り。鳥。情。
 子の。際。二。つ。ふ。割。了。又。斬。付。と。ぬ。け。り。く。り。つ。迹。号。額。
 も。俄。小。強。出。家。中。の。徳。士。大。名。小。名。あ。ま。り。て。刀。
 り。ご。と。る。中。ら。師。あ。ひ。女。抱。中。上。の。少。と。三。重。ま。え。サ。ア
 内。務。も。悪。ど。ん。ま。ふ。早。く。喧。嘩。く。と。ま。て。か。ん。出。ま。る。其。
 一。つ。ら。あ。ん。す。り。面。白。う。ら。面。白。い。お。い。わ。さ。ら。
 支。も。ま。ぬ。け。び。の。更。で。も。出。べ。い。一。癡。呆。ぶ。い。り。か。ん。と。辨。

悪のふるが 掃らふ 早く 文勢が かん出せく っ 喧嘩く

りふごぞ 小物を見ろて 察場主 勸化く

是より二編の四段目五段目の狂言ありびふ
見物男女のありさるるのわらわをけり
まうけて

式亭三馬戯作

オマケ云々 遠慮あし 終十段目 鏡 斎場と遊
出板なま 入法 質の 法 判 する なる 希い

田舎芝居 忠臣蔵 初編 卷之下 終



